はじめに

令和元年東日本台風災害は、大子町がこれまでに経験したことのない甚大な災害となりました。令和元年１０月１２日から１３日にかけて、町内に初めてとなる大雨特別警報が発表される中、本町を襲った記録的な大雨は、堤防の越水など甚大な浸水被害や土砂災害等を引き起こしました。この災害により、改めて犠牲となられました方々に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被災された多くの皆様に心からお見舞いを申し上げます。

浸水等により町内の約１割に及ぶ５８８棟の住家を始め、道路や鉄道、電気、水道などの社会インフラも被災しました。また、農地や事業所も被災し、農業や商工業等は深刻な打撃を受けました。さらに、大量に発生した災害廃棄物や堆積した土砂は、復旧・復興への大きな課題となりました。

こうした中、災害発生直後から、自衛隊、警察、消防等と懸命の救助活動や捜索活動を実施するとともに、避難所における被災者の支援や河川等の応急復旧、災害廃棄物や土砂の処理等に、国・県、全国の自治体、ＪＲ東日本等の関係機関や町内の医療機関、商工業者の皆様と連携して取り組みました。また、この間、町内・県内はもとより全国から駆けつけてくださったボランティアの皆様、そして自身が被災しながらも救助等に当たられた消防団、自主防災会の皆様、更には義援金等をお寄せいただきました方々など、実に多くの皆様方に温かな多大なるご支援を賜りました。ここに改めて心からお礼を申し上げます。

発災から３年が経過しましたが、応急対応・復旧から本格的な復興への移行を見据え、町の総力を挙げて取組を進めてきたところです。令和３年３月には、「大子まちなかビジョン」を策定し、中心市街地の防災力の強化に加え、まちなかの賑わいの創出に向けた事業を進めています。同月には、一部不通となっていたＪＲ水郡線が復旧予定を前倒しで全線開通し、沿線住民にとって重要な公共交通が回復しました。同年６月には、道の駅奥久慈だいごが、全国１，１９４か所の道の駅の中から３９か所、茨城県では唯一の「防災道の駅」に選定され、旧役場庁舎の跡地において、新たな町の防災・観光の拠点施設の整備を進める予定となっています。また、久慈川・押川の河川改修や治水対策についても、国や県により、目に見える形で堤防整備や河道掘削などの工事が進んでいます。令和４年７月

に竣工した役場新庁舎は、台風災害からの復興をより一層示すものとなりました。

これまでのところ、復興事業は迅速かつ順調に進んでいますが、今なお一時的な仮住まいにお住まいの方で、住宅再建の方向性が決まらない方もおられます。被災された皆様が一日も早く穏やかな日常を取り戻すことができるよう、引き続き被災者に寄り添った支援とともに、本町の復興に全力を尽くす決意です。

この記録誌は、この災害を記憶にとどめ、その教訓を風化させることなく後世に伝え、今後起こり得る災害時の対応や危機管理、住民等の防災意識の更なる向上につなげることを目的に取りまとめました。

最後に、本誌の発刊が、自助・共助・公助にわたる取組を更に推し進める契機となり、より災害に強い大子町を実現する一助となることを祈念いたします。

令和５年３月

大子町長　高　梨　哲　彦